
強き燕は二度羽ばたく

龍々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強き燕は二度羽ばたく

【Nコード】

N3718Y

【作者名】

龍々

【あらすじ】

もしもピアノが弾けたなら…では無く、もしも海燕が生きていたなら、というお話。
外伝にて海燕が復活する過程の様な物が書かれていますので、是非そちらも御覧下さい

燕は再び羽ばたいた（前書き）

二次創作にて始めてのオリキャラが皆無な小説。

海燕カッコイイよ海燕。

海燕様——（・△・）キタ——！！！！（下手くそ）

それではどうぞ御覧下さい

燕は再び羽ばたいた

冷たい雨が激しく降り注ぐ中、小柄な女の死神の上に抱きしめる様に一人の男の死神が凭れ掛かる。

男の背には刀が貫いており、それを握るのは女の死神。

男の死神の名前は志波海燕、妻を虚に殺された挙句その虚に自分の体に乗っ取られていた。

そこを部下の朽木ルキアに解放されたのだが、それは死と同義だった。

「朽木い……俺の我儘に付き合わせてひでえ目に遭わせちゃったな……わりい、きつかったろ……？」

海燕はルキアの頭を撫で、せめてもの謝罪を述べる。

「ありがとな……お陰で、心は此処に置いていける……」

海燕はその言葉を最後に体を地面に落とし、息絶える。

ルキアは海燕の名を叫んだ。

自分の心を襲う罪悪感を振り払うかのように。

現世で死んだ者は虚に墜ちた者を例外として、通常は死神の手によってあの世、つまりは尸魂界へ送られるのだが、尸魂界で死んだ者は尸魂界を構築する霊子に分解される。

所が海燕はそれらの例に当てはまらなかった。

海燕の霊子は現世で再構築され、再び死神として蘇ったのだ。

「ここは……現世か？　どういう事だ？　俺は死んだ筈だよな……」
海燕は訳が分からないと首を傾げる。

暫らくすると海燕の近くに抑えてはいるが、恐らく隊長格と思われる巨大な霊圧が近づいてくる。

「えーと、この辺り何ですがねえ、副隊長クラスの霊圧が補足されたのは……」

その霊圧の主は下駄、甚平、目元を隠す帽子と正常な人間なら誰もが警戒する出で立ちをしている男。

怪しい男は辺りをキョロキョロと見回しながら道を歩いている。

余りの怪しさに、海燕は曲がり角の向こうで霊圧を消しながら隠れている。

「……その程度で隠れたつもりか？」

突然、黒い喋る猫が気配を絶って海燕に話しかけてきた。

海燕は思わず声を上げて驚き、下駄帽子の男にも見つかってしまう。

「おやあ？ 何処かで見たような顔ですねえ？」

「あ、あ、あ……」

海燕は下駄帽子の男を指を刺しながら驚く。

下駄帽子の男の名前は浦原喜助、元十二番隊隊長であり、技術開発局初代局長。

百十年前に尸魂界を追放され、それを最後に消息を絶っていた人物である。

海燕は最初こそ浦原を警戒していた物の、途中からすっかり馴染んでしまった。

その理由は紬屋雨と花刈ジン太という少年少女にあった。

浦原に連れられ、恐る恐る浦原商店内に入った海燕を向かえたのが雨とジン太。

雨は内気で大人しく、ジン太は生意気なヤンチャ坊主。

何処にでもいる様な子供達が信頼している様子から、浦原が悪人ではない様に感じられたのだった。

尤も、子供達の戦闘力は人外そのものなのだが。

「ハア……尸魂界にて絶命した筈が現世にて霊子が再構築され、復活、ですか、前例の無い話ですねえ……」

浦原はその言葉の後にそもそも、と付け加え、話を続けようとする。現世は尸魂界と比べて霊子が薄い。

その上で霊子が人体を構築している死神が現世で復活するのはほぼ不可能。

「……自分の霊子にプラスされる霊子の塊が無ければ、ですがね」浦原の言葉に海燕はハツとする。

「そうです。恐らくあなたの体に乗っ取った虚の霊子を吸収し、自分の霊子と混ざり合って現世で復活した、と考えるのが妥当でしょう」

浦原の話を聞き、海燕は若干渋い顔をする。当然だろう。

虚は妻を殺した挙句自分の体に乗っ取り、仲間に怪我負わせたのだ。その虚のお陰で蘇ったとするなら、自己嫌悪にも陥ると言う物だ。

浦原との話し合いの結果、海燕は当分の間、義骸という、現世で死神が使用する、人形のような物に入り、虚退治をしながら浦原商店で居候する事になった。

浦原曰く、宿代は店の手伝いで良いらしい。こうして、海燕の現世生活が始まった。

燕は再び羽ばたいた（後書き）

海燕は僕がBLEACHの中でかなり好感度上位だったりします。
もう全てがかっこよすぎる！！

でも僕が書くとかっこよくないのは何故！？
それでは次回もお楽しみに

燕は朽ちる女と出会う（前書き）

タイトルでお察しかと思いますが、ルキアと再会します。
若干カイルキ気味。

あ、でもくっ付いてラブラブ、と言う訳ではありません。
海燕には嫁もいたしね・・・

燕は朽ちる女と出会う

海燕が現世で生活を始めてから数週間、霊子の薄い現世でも問題なく生活する事が出来た。

さらに浦原から貰った滋養剤で霊圧を回復させ、現世でも尸魂界と同じ様に活動できる。

因みに滋養剤には髑髏マークが書いてあって、飲むのに戸惑ったのは失笑物である。

そして日々、虚退治をする中、死神と虚の霊圧がぶつかっている、即ち戦闘している事に気付く。

「……あ、死神の方やべえな」

海燕は斬魄刀、振花を携え、その場に向かおうとするが、浦原によってそれを阻まれる。

浦原曰く、助けに行くのはもう少し経ってから、との事。

死神の霊圧は一瞬、薄くなったが、その後直ぐに最初より増幅して蘇る。

海燕は不思議に思いながらも、浦原はこれを待っていたのだと察する。

「さ、死神サンの元へいきましようか！」

浦原はいつもの格好で海燕と共に霊圧がある場所へと向かった。

「あ、あなたは……」

気絶したオレンジ色の髪を生やした死神と白い着物を着た、力を失った死神。

その死神が海燕を見て、驚愕している。

海燕の方はその死神を見て、驚くと共に嬉しそうな表情を浮かべる。

「海……燕、殿？」

海燕の名を呼んだ死神の名前は朽木ルキア。

海燕の嘗ての部下であり、自分を虚の呪縛から救ってくれた、女の死神。

尤も、ルキアの方は自分が海燕を殺したという自責の念に駆られているのだが。

「久しぶりだな、朽木！」

笑顔で自分の名を呼ぶ海燕にますます困惑するルキア。

海燕はどう説明しようかと悩んでいる。

「まあまあ、積もる話は後にして、今はこの少年とその家族の皆さんの手当てをしましょうか、もちろん記憶置換も忘れずに」

海燕とルキアは浦原商店にて、互いの状況等を説明しあう。

海燕は尸魂界で絶命した後、現世で復活、ルキアは現世に駐在任務を言い渡された後、オレンジ色の髪をした靈感のある少年、黒崎一護と出会いその家族が虚に襲われて、ルキアも負傷して一護に霊圧を贈与し、今に至る。

「……海燕殿の説明が異様に短いのは気のせいでしょうか」

「あー、気にすんな、俺も今一自分の状況が良く分かってねえんだ」
そう言う海燕を見て、ルキアは突然ホロリと涙を流す。

海燕はルキアの頭を撫でた後、優しく笑いかける。

「申し訳ありませんでした……海燕殿！！」

ルキアは海燕の手を握り締め、海燕の生を実感する。

そして海燕はルキアの罪悪感を洗い流すようにルキアを抱きしめる。

「いいか、俺は虚に殺されたんだ。そして朽木は俺を救ってくれた恩人だ。朽木が気にする様な事は何一つねえよ。あの時、俺を救ってくれてありがとうな」

ルキアは海燕の言葉一つ一つに涙を流し、全てが救われた。

燕は朽ちる女と出会う（後書き）

海燕をカッコよく書けない……他の方の作品でみた海燕は感動するほどカッコ良かったんですけど……ああ、どうしてこうなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3718y/>

強き燕は二度羽ばたく

2011年11月10日17時15分発行